

第75回日本食道学会学術集会の開催を終えて



第75回日本食道学会学術集会 会長

岩切 勝彦

(日本医科大学 消化器内科学)

令和3(2021)年9月23、24日の両日、ヒルトン東京お台場にて第75回日本食道学会学術集会(テーマ:チームで奏でる食道学の未来)を開催させていただきました。歴史と伝統のある本学術集会の会長を務める機会をいただき、会員の皆様に改めて御礼を申し上げます。また、良性の食道機能性疾患を研究テーマとする初めての会長であることもあり、その責任の重大さを自覚し準備に取り組んでまいりました。

2020年初頭より始まった新型コロナウイルス感染症の収束は見えず、開催の1か月前の8月中旬には第5波の緊急事態宣言下にあったため、参加者の安全を第一に考え、口演発表は「現地またはWEB」、ポスター発表は「WEBによるオンデマンド配信」のハイブリッド形式での開催とさせていただきました。主題および口演発表に関してはLIVE配信に加え、事後オンデマンド配信を行いました。

コロナ禍の状況ではありましたが655題の演題応募をいただき、1,100名の先生方にご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。開催時にはコロナ感染者数は減少に転じ、現地にも100名を超す先生方に参加をいただき、活発な議論が行われました。

今回は非外科系の会長の当番であり、口演4会場のうち1会場は良性疾患の会場として、主題演題を含めた多くの口演発表をいただきました。会長特別企画としては「High-resolution manometry」、「食道インピーダンス・pHモニタリング」、「咽喉頭逆流症」の基礎から最先端までを学べるセッションに加え、「臨床医から病理医への疑問・質問に答える」、「診断・治療に苦慮した食道良性疾患」のセッションを企画致しました。良性疾患のEnglish SessionではUniversity of California San DiegoのRavinder K. Mittal先生より食道伸展障害に関する新たな評価法に関するWEBでの講演をいただきました。

また、特別企画の「臨床医から病理医への疑問・質問に答える」「診断・治療に苦慮した食道良性疾患」のセッションでは熱い論議が行われ、久しぶりの「face-to-face」の学会の楽しさを実感できました。

今後の日本食道学会のさらなる発展を祈念するとともに、来年こそは、通常開催されることを期待いたします。最後に、本学術集会開催にご支援をいただきましたすべての皆様に感謝を申し上げます。



令和3年度 名誉会員推戴 ご挨拶

小澤 壯治

(多摩丘陵病院 外科)

名誉会員推戴の御礼

このたびは日本食道学会名誉会員のご推戴を受け、土岐祐一郎理事長を始めとする会員の皆様に心より御礼申し上げます。1981年に慶應義塾大学を卒業後、一般消化器外科に所属し、元理事長の安藤暢敏先生が率いる食道班の班員となり、日本食道疾患研究会に入会しました。私の食道外科医の人生はここから始まりました。日本食道学会へ移行後は理事や監事、第69回会長、全国登録委員会委員長、会誌編集委員会委員長、ならびに各種委員会委員を務め、食道疾患の診断・治療の向上のために尽力する機会を賜りました。本学会での様々な活動を通じて、食道疾患に対する横断的な診断・治療の奥深さを学び、同時に専門分野の枠を越えて志を共にした素晴らしい仲間に出会うことができました。現在は名誉会長の掛川暉夫先生の下で勤務しており、初心に返った気持ちでおりますが、今までの学びやご縁をより一層大切に精進していく所存です。日本食道学会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

西村 恭昌

(近畿大学医学部 放射線腫瘍学)

名誉会員に推戴されて

このたび日本食道学会の名誉会員に推戴されました。誠に名誉なこと、学会役員、会員の皆様に心より御礼申し上げます。私は食道癌に対して照射単独が標準治療であった1980年代に放射線腫瘍医になりました。当時多くのがんが放射線治療では根治しない中、照射単独でも治療することのある食道癌の治療が好きでした。前身の食道疾患研究会の頃から全国各地で開かれる研究会を楽しみに参加していました。2002年広島で開かれた第56回学術集会(峠哲哉会長)で、初版食道癌治療ガイドラインのシンポジウムが開かれ、シンポジストの発表に会場から何度も質問し、意見を述べました。その時の発言によるためか、第2版ガイドライン作成委員会(桑野博行委員長)では副委員長に指名されました。外科や内科の先生方とガイドライン作成に携われたことは大変貴重な経験でした。また、学会誌 Esophagus の編集にも関わり、原稿が集まらない時代から、念願の Medline 掲載を経て、4を越えるインパクトファクター獲得まで経験することができました。放射線腫瘍医になって40年近くになりますが、この間の食道癌治療法の進歩は著しく、日本食道学会で楽しい時を過ごさせていただいたことに心から感謝いたします。さらなる発展を祈念します。

矢野 雅彦

(市立吹田市民病院 理事長)

この度は日本食道学会の名誉会員に推戴いただき誠にありがとうございます。2010年、初めて理事になって以降、主に食道外科専門医認定施設認定部会や教育委員会等の仕事をさせていただきました。施設認定部会では、難易度やリスクの高い食道癌手術を、患者さんが安心して任せられる食道外科医を育成するためには認定施設はどうあるべきかを検討して参りました。途中、「均霑化か?集約化か?」という議論もありましたが、最終的には「修練できる施設の間口は広く、しかし専門医試験は厳しく」という方針に落ち着きました。現在129の認定施設と45の準認定施設から毎年多くの専門医が生まれているのを目の当たりにしてうれしく思っております。また、教育委員会では教育セミナーや専門医試験の問題作成に関らせていただきました。いずれの委員会においても委員の皆様の献身的なご協力をいただき感謝しております。本学会の今後益々のご発展を祈っております。

令和3年度 特別会員推戴

飯石 浩康先生	井上要二郎先生
今本 治彦先生	大平 雅一先生
岡田 裕之先生	木下 芳一先生
末吉 晋先生	田村 茂行先生
西田 俊朗先生	三森 教雄先生
村上 雅彦先生	森 正樹先生

新役員編成

新副理事長：上野正紀先生
新理事：石原立先生、伊藤芳紀先生 佐伯浩司先生、山崎誠先生
新事務局長：牧野知紀先生

各種委員会・部会報告

役員変更に伴い、各種委員会の再編を行いました。

2021年度 各種委員会委員長・副委員長一覧

(2021年12月現在 敬称略)

	委員会名	役職	お名前
1	会則委員会	委員長	神宮 啓一
		副委員長	伊藤 芳紀
2	財務委員会	委員長	上野 正紀
		副委員長	佐伯 浩司
3	選挙管理委員会	委員長	石原 立
		副委員長	上野 正紀
4	会誌編集委員会	委員長	松原 久裕
		副委員長	島田 英昭
5	広報委員会	委員長	加藤 健
		副委員長	本山 悟
6	国際委員会	委員長	北川 雄光
		副委員長	掛地 吉弘
7	保険診療検討委員会	委員長	渡邊 雅之
		副委員長	加藤 健
8	倫理委員会	委員長	島田 英昭
		副委員長	上野 正紀
9	将来構想検討委員会	委員長	土岐祐一郎
		副委員長	武藤 学
10	全国登録委員会	委員長	渡邊 雅之
		副委員長	藤 也寸志
11	専門医制度委員会	委員長	竹内 裕也
		副委員長	佐伯 浩司

	委員会名	役職	お名前
12	食道科認定医認定部会	委員長	佐伯 浩司
		副委員長	掛地 吉弘
13	食道外科専門医認定部会	委員長	安田 卓司
		副委員長	大幸 宏幸
14	食道外科専門医認定施設認定部会	委員長	本山 悟
		副委員長	亀井 尚
15	食道外科専門医カリキュラム設定部会	委員長	山崎 誠
		副委員長	河野 浩二
16	教育委員会	委員長	亀井 尚
		副委員長	山崎 誠
17	プログラム検討委員会	委員長	河野 浩二
		副委員長	岩切 勝彦
18	食道癌取扱い規約委員会	委員長	土岐祐一郎
		副委員長	武藤 学
19	病理組織検討委員会	委員長	眞能 正幸
		副委員長	根本 哲生
20	内視鏡検討委員会	委員長	武藤 学
		副委員長	石原 立
21	食道 ESD 偶発症検討部会	部会長	石原 立
22	拡大内視鏡による食道表在癌深達度診断基準検討部会	部会長	石原 立
23	拡大内視鏡による Barrett 食道癌診断基準検討部会	部会長	石原 立
24	食道癌診療ガイドライン検討委員会	委員長	北川 雄光
		副委員長	石原 立
25	ガイドライン評価委員会	委員長	大幸 宏幸
		副委員長	神宮 啓一
26	用語委員会	委員長	伊藤 芳紀
		副委員長	河野 浩二
27	GERD 検討委員会	委員長	岩切 勝彦
		副委員長	栗林 志行
28	研究推進委員会	委員長	掛地 吉弘
		副委員長	武藤 学
29	総務委員会	委員長	竹内 裕也
		副委員長	渡邊 雅之
30	医療安全委員会	委員長	佐伯 浩司
		副委員長	松原 久裕

〔会則委員会〕 定款変更について

委員長 神宮 啓一
(東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学)

先に開催されました令和3年度の評議員会・社員総会において、以下の定款の変更案が承認されました。現在、都の認証を受けるべく進めています。

①事業年度の変更について

決算説明(財務委員会)、理事会のスケジュールが事業年度締め(4月末)から1ヶ月未満の場合もあり、決算報告と予算案の作成が非常にタイトとなっており、貸借対照表の監事の署名、押印は原紙持ち回りのため時間を要するという問題が発生している。については会計年度を4月～3月に変更する。

②事業報告、事業計画、決算、予算の議決について

現行の定款では、事業報告、事業計画、決算、予算について社員総会で議決する(または評議員会の議決)という文言があるため、NPO法人規定のために、学術集会の開催日の制約がかかる。以上より、事業報告、事業計画、決算、予算について、(評議員会および)社員総会で議決するという文言をやめ、「理事会のみの議決とする」と変更する。

③学術集会と総会の開催について

天災等予期せぬ事情により、学術集会が開催できないことがある。現行の定款では同時に、評議員会、総会も開催できないことになる。しかし、評議員会、総会には、予算決算、役員を選任他、学会本体の運営にかかわる審議事項があるため、学術集会の開催と切り離して開催することが可能なように定款・規則を整備する必要がある。

④書面評決について

評議員会、社員総会を開催するにあたり、書面又は電磁的記録で議決権行使を行う(もしくは、特定の者に対し、議決権行使者の指示に従って議決権を行使させる)こととする場合に問題となるのが、他の議案は書面等による議決権行使で対応できるが、役員選挙だけ実施できなくなる。そのため、定款29条第3項の「ただし、役員を選出においては、書面表決を認めない。」この一文を削除する。これが承認された場合、定款施行細則第3号第2条の「委任状による投票は、これを認めない。」の一文も削除する。

〔会誌編集委員会〕 発展するEsophagus!

委員長 松原 久裕
(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)

本学会の英文機関誌Esophagus誌は皆様のご支援、ご協力により2020年のImpact Factorは4.230まで上昇し、食道に特化し

た分野では引き続き1位をキープしております。今年のImpact Factor計算法は通常の刊行に加え、online firstでの引用が加わり、例年よりかさ上げされております。来年発表される2021年からはonlineで発表された論文のみで計算されるため今年より厳しい状況が予想されます。会員皆様のこれまで以上の引用を切に御願ひ申し上げます。

一方で食道に特化した分野では昨年より1位になったこともあり、数年前まで課題であった原著論文の質も向上し、被引用数がspecial article, reviewとともに伸びてきております。ダウンロードされた論文数も2019年の50%の伸びを示しております。今年の本誌の発展に大変貢献いただいた小澤壯治前編集委員長を始め、木下芳一先生、西村恭昌先生、森正樹先生の4名が退任されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。新たに伊原栄吉先生、川久保博文先生、神宮啓一先生、藤也寸志先生の4名が加わりました。今後、益々増加している投稿論文の査読にご苦勞をおかけ致しますがよろしく御願ひ致します。

また、2020年の最優秀論文賞、best reviewer功勞賞、best reviewer準功勞賞ですが、

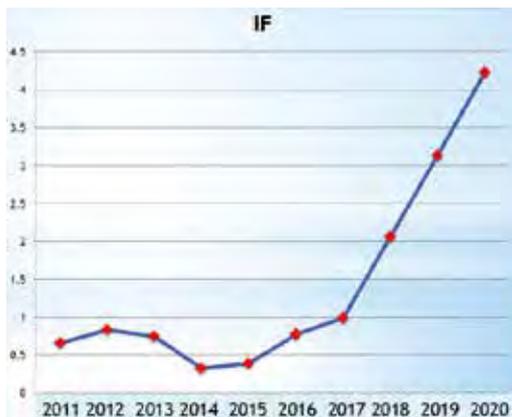
最優秀論文賞：渡海義隆先生 Application of artificial intelligence using convolutional neural networks in determining the invasion depth of esophageal squamous cell carcinoma. Esophagus, Vol.17-3, 250–256 2020

best reviewer功勞賞：坊岡英祐先生、小池智幸先生

best reviewer準功勞賞：郷田憲一先生、柴垣広太郎先生、吉田直矢先生、二宮致先生、眞部紀明先生、峯真司先生、野間和広先生、小村伸朗先生、佐伯浩司先生、櫻井洋一先生、塩崎敦先生、天野祐二先生、石原立先生、亀井尚先生、栗林志行先生、中村哲先生以上の先生が受賞されました。本誌への多大な貢献に関しまして心より感謝申し上げます。

今後も食道学分野のトップを維持することは言うまでもなく、Gastroenterology & Hepatology分野においてもTop journalを目指して参ります。世界の食道学を牽引している会員各位からのこれまで以上に素晴らしい論文の投稿ならびに本誌論文の引用に御協力を

願ひ致します。今後とも更なる発展のため何卒宜しく御願ひ申し上げます。



〔保険診療検討委員会〕

令和4年度診療報酬改定について

委員長 渡邊 雅之(がん研究会有明病院 消化器外科)

保険診療検討委員会では令和4年度の診療報酬改定に向けて作業を進めてまいりました。日本食道学会からの要望項目は以下の通りです。

【技術・新設】

- 1)再建胃管悪性腫瘍手術・全摘(消化管再建を伴う)(頸部・胸部・腹部の操作)
- 2)再建胃管悪性腫瘍手術・全摘(消化管再建を伴う)(頸部・腹部の操作)

【技術・改正】

- 1)食道大動脈瘻手術(大動脈瘤切除術と食道切除術の同時算定)
- 2)縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術の増点
- 3)ロボット支援下食道悪性腫瘍手術の増点
- 4)自動縫合器使用個数の増加(6個→8個)

7月20日に厚労省のヒアリングが終了し結果を待つばかりとなっています。

〔広報委員会〕

市民公開講座について

委員長 加藤 健

(国立がん研究センター中央病院 頭頸部内科)

広報委員会は、7月の理事会にて新たなミッションをいただきました。本学会が今まで行ってこなかった市民公開講座を行い、日本食道学会も社会へ向けて情報を発信すべし、とのことでした。これは、日本医学会からも各学会へ社会貢献について、今まで以上に求められている事にもよります。他学会の市民公開講座を参考にすると、コロナ禍にもかかわらず、むしろWEBなどを活用し、広く全国からの視聴者を対象に、年数回行っていることが分かりました。従来は会場を確保したり、旅費などが必要であった市民公開講座は、むしろ低コストで実施できるコンテンツとなったのです。これを期に、広報委員会に新メンバーを迎えました。ネットでの情報発信に詳しい、慶應義塾大学浜本康夫先生、東京医科歯科大学川田研郎先生や、患者会活動にて情報発信している高木健二郎さんなど、比較的若手のメンバーを加え、新しい市民公開講座を作るべく、現在実行委員会を組織して企画を練っています。ひとまず来年4月の食道がん啓発月間に、食道がん患者会とのジョイントにて第1回の市民公開講座を行い、9月の学術総会に合わせて2回目を行うことが決定しています。昨今のIT化により、できることは拡大していますが、“上手に”使うことができるかが、市民公開講座の成功するかどうかにかかっています。今後も皆様のご要望やご意見を反映させながら、“上手く”情報発信できる

よう務めてまいります。

また、11月に開催されたアルコール関連問題啓発週間WEBセミナーについても、食道学会として後援させていただきました。今後、このようなイベントについても、積極的に後援し、発言していくことが重要と考えます。

〔国際委員会〕

国際委員会報告

委員長 北川 雄光(慶應義塾大学医学部 外科学)

国際委員会では、来る2022年9月に横浜で開催されますISDE 2022 World Congressを、向こう数十年の食道疾患診療の基軸となるような学術会議とすべく、第76回学術集会 会長 東邦大学 島田英昭先生にご相談しながら準備を進めております。2021年9月に開催されました本委員会におきましては、食道疾患診療にあたる中堅・若手医師がISDE 2022の場を利用してClinical questionについて討議する企画が承認されました。学術的な交流とともに、ISDE2022後も持続可能なネットワークを構築するための企画です。今後、ISDEと連携しながら、実現に向けて準備を進めていく予定です。

また、国立がん研究センター中央病院 加藤健先生とNational Taiwan University Chih-Hung Hsu教授が発起人となり、Japan Clinical Oncology Group 主導で過去2回開催されました本邦と台湾の食道癌グループによる集学的治療に関するカンファレンス「East Asia Multimodality Treatment Conference for Esophageal Cancer」につき、食道学会として後援することが提案され承認されました。続いて、2021年10月27日に開催された第3回カンファレンスにおいては、慶應義塾大学 松田諭先生がファシリテーターを務め、切除可能進行食道扁平上皮癌に対する根治的放射線療法とサルベージ治療をテーマとし、島田英昭先生のOpening remarks、浜松医科大学 竹内裕也先生による基調講演を軸に、アジアにおける標準治療の現状と将来展望について、情報交換をすることができました。ウェビナー形式を採用し、100名以上の先生方にご参加をいただきましたこと、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。今後は参加対象国を増やしつつ、アジアにおける食道癌治療開発の基盤とすることができるよう展開していく予定です。

〔全国登録委員会〕

全国登録委員会報告： NCDを利用した食道癌全国登録について

委員長 渡邊 雅之(がん研究会 有明病院 消化器外科)

今年度から全国登録委員会とNCD部会が統合され、全国登録委員会に一本化されました。食道癌全国登録はNCD移行後3年目

となる2015年症例の後ろ向き登録が無事に終了いたしました。今回の登録では383施設から9,368例の登録をいただきました(2014年は375施設9,026例)。ご登録をいただきました施設の先生方に心より感謝申し上げます。2014年症例後ろ向き登録の結果は7月8日にNCDから登録参加施設の代表者に配信させていただきました。また、Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2014は9月22日にEsophagus誌にonline publishされています。論文ご執筆の際にはご引用いただければ幸いです。今後とも食道癌全国登録へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

〔食道外科専門医認定部会〕

食道外科専門医関連の報告事項

部会長 安田 卓司

(近畿大学医学部 外科学教室 上部消化管部門)

〔食道外科専門医認定試験〕

今年度も開催が心配された食道外科専門医認定試験ですが、COVID-19感染も奇跡的に鎮静化し、無事11月27日(土)に実施することができました。審査の概要と結果を報告します。

今年の新規申請者は29名で、一次審査合格は21名(診療経験不足:1名、手術ビデオ審査不合格:7名)で、全員が二次審査を受験されました。筆記試験(70点満点)は、平均が38.4点(最高50点、最低22点)と例年の平均点(45~46点)と比べると7点ほど低く、難問であったように思われました。口頭試問(30点満点)は、平均が22.1点(最高27点、最低15点)と例年通りでした。総合成績は平均60.5点(最高76点、最低37点)で、今年度は19名の先生を合格と最終判定しました。

〔食道外科専門医更新申請〕

2021年12月31日で専門医資格の有効期限が満了する58名と、昨年更新ができず今年復活申請を行う27名の計85名が今年更新対象者でしたが、実際更新申請をされたのは49名で、資格審査の結果、診療経験不足の1名を除く48名で更新が認められました。更新申請をされなかった36名中14名は今年新設された名誉指導医へ移行申請されました。残りの22名の先生方についてはその理由を解析し、それを基に更新条件を再検討していく予定です。

〔新規及び更新申請書類審査を通じて〕

診療経験は、部会員が分担して手術記録を1例ずつ確認して審査を行っており、非常に時間と手間がかかっています。領域別の術者・指導医の記載、手術イラストの記載、郭清LN No.の記載など正確な記載を宜しくお願いします。

〔食道外科名誉指導医〕

今年から新設された名誉資格で、今年度は暫定食道外科専門医資格を有していた先生が対象です。2021年1月1日の時点で専門

医資格を喪失されている30名の対象の先生に申請の意向について問い合わせ、復活申請の1名と保留の1名を除く残り28名全員の先生に申請をして頂きました。

【食道外科専門医セミナー】

食道外科専門医審査の概要と申請書類の注意点及び手術ビデオ審査のポイントについては、日本胸部外科学会学術集会上で企画して解説していますので、ご参照頂ければと思います。

【今後】

皆様からよく頂く質問事項に対する回答をQ&AとしてH.P.に掲載していく予定です。また、新規申請ならびに更新申請における申請条件の見直しや申請方法の簡略化も検討していく予定です。学会H.P.または事務局からのメールを十分ご確認頂くようお願いいたします。より多くの先生に新規専門医を取得、かつ更新して頂けるように改善をしていきますので、是非、専門医資格の取得と維持を目指して頂ければと思います。

【教育委員会】

教育セミナーについて

委員長 亀井 尚

(東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野)

学術集会上併せて集合型で開催していた教育セミナーですが、COVID-19感染の影響により2020年度に引き続き2021年度もWEBオンデマンド開催となりました。毎回、各領域のエキスパートの先生方に最新のトピックを含めてご講演いただき、大変好評を得ております。本年度は下記の6名の先生によるセミナーを実施いたしました。

- 1.特殊型食道癌の病理診断
(公益財団法人がん研究会有明病院病理部・河内洋先生)
- 2.アカラシア
(昭和大学江東豊洲病院消化器センター・井上晴洋先生)
- 3.胸腔鏡下食道癌サルベージ手術の適応とコツ
(東北大学大学院医学系研究科消化器外科学分野・亀井尚先生)
- 4.食道胃接合部癌に対する切除再建術式
(浜松医科大学外科学第二講座・竹内裕也先生)
- 5.食道癌放射線治療における現在の成績と今後
(東北大学大学院医学系研究科放射線腫瘍学分野・神宮啓一先生)
- 6.進行・再発食道扁平上皮がんに対する薬物療法について
(慶應義塾大学医学部腫瘍センター・浜本康夫先生)

セミナー受講は、食道外科専門医申請、更新において必須の

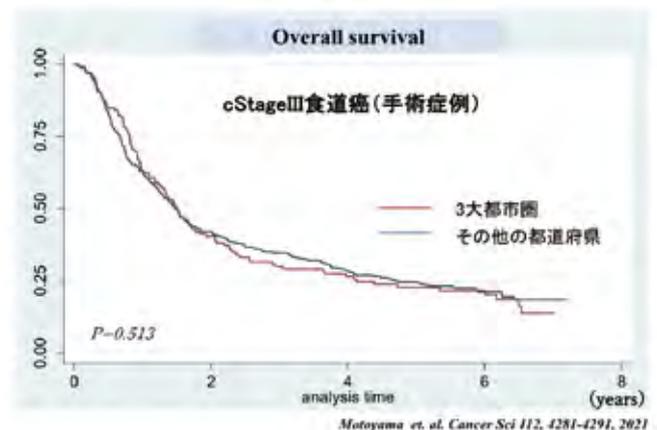
条件となっており、その年の専門医申請に利用する場合を想定して、7月末の締め切りを考慮した運用が望まれます。2021年度は事前申し込みを6月10日～7月5日に設定し、セミナー動画を7月21日～10月20日まで3か月間配信いたしました。事前申し込みのうえ視聴いただければ、受講実績はその年の申請に利用可能となります。さらに、その年の申請には利用できませんが、追加申し込みを9月1日～9月12日に設定しました。事前申し込みは685件、追加申し込みは188件、合計873件申し込みいただき、動画アクセス数は3,036件に上りました。集合開催に比べて、場所と時間の制約がない利便性から、教育セミナー等の開催形式は今後もWEB開催が主体になっていくものと思われます。2022年度セミナーの情報は随時ホームページにあげてまいりますのでご確認ください。

【食道外科専門医認定施設認定部会】

2021年度施設認定

部会長 本山 悟(秋田大学医学部附属病院 食道外科)

2021年度の食道外科専門医認定施設認定審査において、新たに9施設が認定施設として承認されました。これにより、全国で44都道府県の138施設が認定施設として登録されたこととなります。そして次年度、多くの施設が2回目の更新、つまり施設認定から10年目を迎えることとなります。食道領域の手術件数は全国で6,000件程度と見込まれ決して多くはございませんが、全国各地で手術が実施されています。特に食道癌手術では、その手術侵襲、術後のQOL低下、再発リスクの高さからきめ細かいフォローアップが必要であり、大都市圏に手術を集中させることが必ずしも適切ではありません。そのためにも標準的な手術治療を確実に実施できる質の高い専門医施設が少なくとも各都道府県に存在する必要があると考えます。現状で、3大都市圏(人口600万以上の6都道府県)とその他の都道府県で、75歳以上の高齢者に対する食道癌手術成績が異なるのかを検討してみました。結果は下図のごとく同等でした。専門医制度、とりわけ施設認定制度の妥当性が証明されたと思っています。



〔プログラム検討委員会〕

第75回日本食道学会プログラムアンケート報告

委員長 河野 浩二(福島県立医科大学 消化管外科学講座)

2021年9月23日～24日、東京(ヒルトン東京お台場)で現地開催とWeb配信というHybrid形式で開催されました第75回日本食道学会学術集会に関しまして、開催形式やプログラムに関するアンケートを実施いたしました。Googleフォームを用い、会員全員を対象に、学会後1か月間アンケートを行うという形式の2回目の調査となります。委員会を代表いたしまして、会員の皆様のご協力に感謝するとともに、その結果と概要を報告いたします(回答数309件、外科系73%、内科系18%)。

1.第75回のHybrid開催(現地+Web開催)について

概ね満足73%、許容できる24%と、Covid-19の状況下での開催形式に関して、会員の満足度は高かったです。特に、「現状ではベストな形式である」「配信で見直しができる」などのメリットが挙げられていました。一方で、「議論が盛り上がらない」「動画が見づらい」という意見もありました。

2.Covid-19が収束した場合、今後の食道学会の開催形式は?

Hybrid形式の希望が65%と多数を占め、コメントとして「遠方からでも、勤務中からでも参加できるし、議論は現地で活発に行える」「配信で復習できる」が挙げられていました。一方、例年の現地開催のみの希望も32%あり、Hybridと合わせ、現地開催は必須という傾向がみられました。

3.完全Web配信となった教育セミナーについて

概ね満足69%、許容できる29%と満足度は高く、今後もWeb配信を望む意見が多数ありました。

4.Web配信となった場合(完全Webでも、Hybridでも)、配信形式で望ましいのは?

同日のリアルタイム配信と、1-2か月程度のOn demand配信の両立を望む声が、68%と多数を占めました。「On demandだと結局見ないこともあるので、同日配信で臨場感を味わいたい」「すべてOn demand配信する必要はなく、コンテンツを選択してもいい」という意見がありました。

5.「学会の英語化について」

英語セッションをプログラム全体の20%以下にすべきが62%、21-50%程度にすべきが34%と、英語化を一部のセッション(上級演題、国際セッションなど)に留めるという意見が大多数と言えます。その理由に関しては、討論の質が落ちることへの危惧が多数挙げられております。また、討論に関しては日本語としても、スライドやポスターの発表媒体は英語化を許容するという意見が68%程度でありました。昨年のアンケート結果とほぼ同様で、完全英語化には賛成できないが、部分的な英語化への流れを容認しつつあるといった現状と思います。

6.「評価の高かった特別セッション」

評価の高い企画を5件選択いただいたところ、手技関連が3件(ビデオシンポ1, ビデオシンポ2, パネル2)と、内視鏡シンポ1件が、上位4企画となりました。

今回は、コロナ禍でのHybrid形式として2回目の学術集会であり、会員全員を対象としたWeb回答形式のアンケート調査でありました。学会の根本に関わる学術集会の開催形式、すなわち「現地開催のみ or Hybrid形式」の大命題に対して、2-3年の経過を積み重ね、広く議論を重ねることで、結論を出していきたいと思っております。よく言われる、「コロナ禍を経験して、New normalを確立する」機会かもしれませんので、プログラム委員会で議論を行って参ります。会員の皆様の忌憚のないご意見、ご提案をお待ちしております。

会員マイページ導入のご案内 ～初回ログイン設定のお願い～

日本食道学会では、更なる会員サービスの向上のため、会員マイページのシステムを導入いたしました。会員マイページの初回ログインがお済みでない方は、設定いただけますようお願い申し上げます。設定方法につきましてはご不明な点がございましたら、事務局までお問合せください。お手数をお掛け致しますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年以降の学術集会のご案内

◆ 第76回日本食道学会学術集会

会長：島田 英昭(東邦大学大学院
消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座)
会期：2022年9月24日(土)～26日(月)
会場：京王プラザホテル

◆ 第77回日本食道学会学術集会

会長：安田 卓司(近畿大学医学部
外科学教室上部消化管部門)
会期：2023年6月29日(木)～30日(金)
会場：大阪国際会議場

◆ 第78回日本食道学会学術集会

会長：渡邊 雅之(がん研究会有明病院 消化器外科)
会期：2024年7月4日(木)～5日(金)
会場：ステーションコンファレンス東京

会告：第76回日本食道学会学術集会

第76回 日本食道学会学術集会準備報告
2022年9月24日の週末はぜひ東京でお会い
いたしましょう！



東邦大学大学院
消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座
会長 島田 英昭

この度、第76回日本食道学会学術集会を2022年9月24日(土)から26日(月)の3日間、東京(新宿)の京王プラザホテルで開催させて頂くこととなりました。歴史と伝統ある本会を主催することを大変光栄に存じます。9月26日(月)から28日(水)には国際食道疾患会議を同時開催することとなっております。

日本食道学会は、外科、内科、放射線科、病理学などの臨床・基礎医学を融合させた、食道癌のみならず、逆流性食道炎など良性の疾患を含めて広く食道の病気を扱う食道専門の学会です。食道に関する多領域の学問と臨床課題を領域横断的にディスカッションする場として貴重な学会です。本学会は、日本食道疾患研究会創立57年来の歴史と伝統の中で、食道癌診療ガイドライン、食道癌取扱い規約を作成し、国内外の医療水準の均てん化と発展に貢献してまいりました。第76回学術集会は、2022年に最新の食道癌診療ガイドライン第5版を発刊後に開催される最初の学術集会となります。2021年7月に改訂された胃癌治療ガイドライン第6版の接合部癌関連CQと合同作業が行われています。免疫チェックポイント阻害剤の新たな展開は？術前治療はどうなるのか？内視鏡治療と低侵襲手術の適応は？ロボット支援手術の展開は？など、本会は、相次いで発刊される両ガイドラインを世界へ向けて発信する重要な学術集会となります。

新型コロナウイルス感染症の影響は未だ予断を許さない状況ではありますが、手術治療、診断、患者管理など多くの分野で活躍する1,500名を超える専門医が集まる現地開催を予定して準備しております。当日は、京王プラザホテルでの、会員の皆さまの熱い議論を期待しております。お目にかかれることを心より楽しみにしております。



*編集後記

去年の編集後記には、コロナ禍による変化について綴った記憶があります。現在この原稿を、いわゆる第5波収束後に書いていますが、post-コロナ時代がいよいよ始まったという印象です。ネットを使い、個人個人が情報を得て判断し、行動を起こし、日本国内だけでなく、世界とも容易に繋がれる時代です。そのような時代に、学会としてどのような情報発信をしていくのかというのは今後の課題でもあります。東京オリンピックでは、若い世代の選手が堂々と世界と戦っている姿が印象的でした。勝手な思い込みかもしれませんが、金メダルをとるためにやるのではなく、自分たちが思う“楽しい”ことをして、個性を伸ばしていったところ、いつの間にか世界のレベルになっていたという感じがしました。これからの若い研究者たちは色々な経験をして、多様性を獲得したうえで個性を伸ばすようにしてもらえればと思います。またそういった研究者たちが、“楽しい”と思ってくれるような場を作っていくことも必要だと思います。来年は9月にJES/ISDEの共同開催もありますし、新しいガイドラインも出ます。新しい時代の幕開けに期待します。

広報委員会 委員長 加藤 健
副委員長 本山 悟
委員 竹内裕也、神宮啓一、山崎誠、村上健太郎
有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一、奈良智之
白川靖博、山辻知樹、浜本康夫、坪佐恭宏
坂中克行、野村基雄、矢野友規、川田研郎
高木健二郎

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012
東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階
電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233
e-mail: office@esophagus.jp
ホームページ <http://www.esophagus.jp/>